

私たちの「仲間たち」

294

環境の変化に順応できるか？

再度の登場になりますが、今回はサシバです。カラスぐらゐの大きさで、背面は褐色、顔には白い眉斑があり、頬は灰色、のど元が白く中央には黒い縦線があります。胸腹部は黒の横斑が走っています。サシバは「渡り」をするタカの種類として知られています。4月過ぎに飛来し、子育てを終えて9月末から10月にかけて、フィリピンやインドネシアに帰っていきます。空を埋め尽くすように渡る群れの姿は壮観そのものです。



▲鳩山の動植物
サシバ (タカ科)

このサシバに異変が起きていられないので、生息地はエサとなるヘビ、ネズミ、大型昆虫などが生息する湿地や、田んぼ周辺などのいわゆる「谷津」といわれるようなところ。しかし、いろいろな事情で谷津、もしくは谷津田が消えてしまっています。生息適地が消滅すれば個体数も減少します。鳩山でも十数年前は、数か所で営巣していました。石坂の森の沢地、石場沼周辺などにもいたのですが、近頃では全く姿を確認できません。物見山上空を渡っていく姿もこの2、3年見られません。唯一、周辺で確認しているのが、坂戸市小沼地区の河畔林で営巣するペアです。河畔林で営巣するのは極めて珍しいというところで、圏央道を建設する際は、保護の観点から事業主にもかなりの配慮をお願いしました。営巣地周辺を突き抜けていく部分は、遮蔽壁やグリーンネットという天蓋を付けてもらいました。

対策が功を奏したか、サシバは毎年順調に子育てをしています。しかし、全国的な減少傾向は危機的なものがあり、県のレッドデータブックでは「絶滅危惧IB類」に指定されています。どうやら本腰を入れて対策を講じなければならぬ時がやってきたようです。

(写真・小倉憲貴／文・鈴木伸)

【お詫びと訂正】

6月号24頁「私たちの仲間たち」の文書中、「鑑賞」は「観賞」の誤りでした。訂正してお詫びいたします。

人口と世帯

6月1日現在、()は対前月比		
人口	14,591人	(-24)
男	7,212人	(-9)
女	7,379人	(-15)
世帯	5,833世帯	(-1)
5月の出生数	3人	

7月の納税・納付

固定資産税	(第2期)
国民健康保険税	(第1期)
後期高齢者医療保険料	(第1期)
介護保険料	(第1期)

●納期限を過ぎないように、コンビニ納付や口座振替をご利用ください。

編集・集・室

▼取材した町内の子育て拠点施設で、町外からの利用者へもお話を聞きしました。「鳩山は町を歩いている、お年寄りの方が子どもに声をかけてくれたり、朝、家の前を掃除してきれいにしていたり、いい町だなと感じます」「家庭の事情で鳩山町を出しましたが、もし可能ならこの町で子育てをしたいです」―若いママさんからのありがたい言葉。町職員として、うれしく思いました。

広報写真で振り返る町の歴史 ⑦



平成2年11月10日・11日 鳩山町所蔵絵画展
町が昭和62年度から収集してきた美術品約80点のうちから、絵画67点を中央公民館で展示した様子が伝えられています。【平成2年12月(No.220)号より】